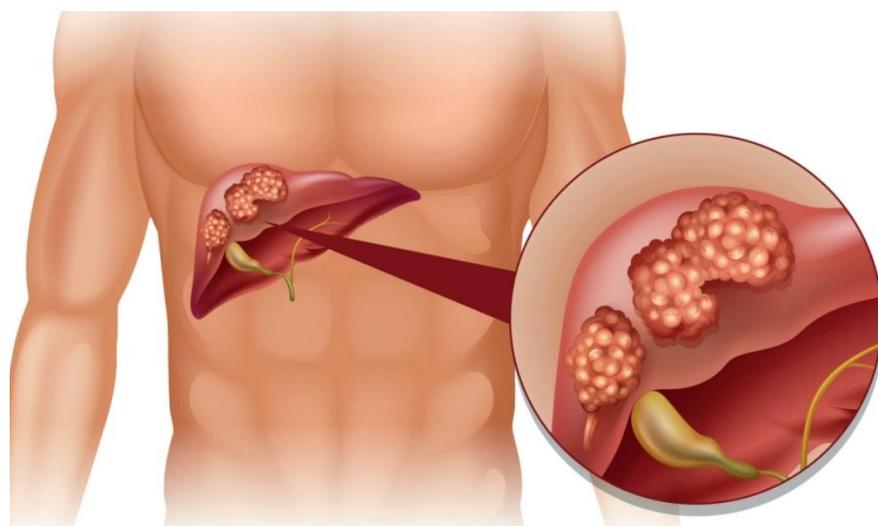


切除不能な大腸がん肝転移におけるラジオ波焼灼術

オランダ Netherlands Cancer Institute の Ruers らは、切除不能な大腸がん肝転移（10 個未満で肝外病変なし）患者において、全身療法単独または積極的局所治療（RFA±切除）の追加を割り付ける第Ⅱ相ランダム化試験（EORTC 40004 CLOCC）を実施し（n=119）、「Journal of the National Cancer Institute」誌に発表しました。



追跡期間中央値 9.7 年で、全身療法単独群の 89.8%、集学的治療群では 65.0%が死亡し、全生存期間は集学的治療群で有意に延長しました（ハザード比 0.58）。



3年・5年・8年での生存率は、全身療法群で各 55.2%・30.3%・8.9%、集学的治療群では 56.9%・43.1%・35.9%でありました。